

専門研修プログラム名	高知大学病院連携施設 精神科		専門研修プログラム
基幹施設名	高知大学医学部附属病院		
プログラム統括責任者	数井 裕光		
専門研修プログラムの概要	高知大学医学部附属病院を基幹型として、高知県下の多くの精神医療に関わる病院と連携し、専門研修プログラムを構築している。児童・思春期から老年期までの幅広い年齢の、気分障害、統合失調症、認知症の3大精神疾患から身体表現性障害、不安障害、人格障害、摂食障害、発達障害、リエゾン・緩和医療までの幅広い精神疾患の治療を経験することができる。施設群には精神科救急を担う病院や児童病棟をもつ病院も含まれており、多様な治療場面を経験できる。また県外から著明な講師を招いて勉強の機会を多く作る伝統は開講以来続いている。		
専門研修はどのようにおこなわれるのか	1年目は基幹型である大学病院において、専門研修指導医を中心に専攻医の到達目標とされている修得すべき知識・技能・態度や症例の経験、カンファレンス、症例発表などを経験する。2年目は大学病院を含む総合病院、あるいは精神科単科病院で指導医と相談しながら、更に研修・研鑽をつむ。3年目は指導医はおりながらも、指導医からの自立を目指した診療をおこない、経験すべき症例や修得すべき知識・技能・態度の到達目標に向け、研鑽をつむ。毎年、研修実績管理システムを用いて研修の評価などを行い、専門医取得を目指す。		
専攻医の到達目標	修得すべき知識・技能・態度など	1年目は大学病院を中心に指導医と共に患者を受け持ち、学ぶ。2年目は総合病院や救急・地域医療を担う精神科単科病院で指導医と共に研修する。3年目は児童・思春期精神障害、アルコール・薬物依存症なども経験し、指導医からの自立を目指す。	
	各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得	1年目には大学病院にて各種カンファレンスを経験し、院内カンファレンスで発表する。2年目以降には、院内だけでなく、外部の研究会などで症例発表を経験し、知識・技能を深める。	
	学問的姿勢	1年目から学内外の研修会・勉強会・学会に参加する機会を提供し、将来にわたって自己学習する姿勢や、研究に対する姿勢を身につける。	
	医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性	1年目には指導医と共に患者への姿勢、チーム医療、適正な医療、自己研鑽の態度、患者への説明と同意などを学ぶ。2年目以降には後進の指導やEBMを収集し臨床に適用する態度を学び、倫理性・社会性においても適切な医療を行う姿勢を身につける。	
施設群による研修プログラムと地域医療についての考え方	年次毎の研修計画	1年目は主に大学病院で基本的な知識や態度の修得を目指す。2年目以降には、救急症例や地域症例、疾患としてはアルコール・薬物依存症、パーソナリティ障害などを施設群で経験する。	
	研修施設群と研修プログラム	高知県内の主要な総合病院、精神科単科病院を研修施設群として登録しており、様々な特色をもった病院での研修が可能である。	
	地域医療について	高知県は日本の中でも高齢化率の高い県である。その中で患者の自立や社会復帰に向けた地域医療の取り組みは、研修施設群を構成する病院でも重要な課題であり、十分に経験する事が出来る。	
専門研修の評価	研修実績管理システムを用いて到達目標に達しているかを毎年評価する。		

修了判定	研修実績管理システムに登録された経験症例や研修項目の達成度、多職種評価などと、医師としての適性があるかどうかを含め、プログラム管理委員会で審議し、最終的に総括責任者が判定を行う。	
専門研修管理委員会	専門研修プログラム管理委員会の業務	年に複数回開催し、研修プログラムの作成や施行上の問題点の検討、再評価や、各専攻医の統括的な管理や評価を行う。専攻医や指導医への助言も行う。
	専攻医の就業環境	労働基準法を遵守した適切な労働時間、環境を提供する。相談しやすいよう屋根瓦式の指導体制をとっている。
	専門研修プログラムの改善	専攻医および指導医からの聞き取りや、プログラム委員会での情報共有等で、問題点を検討し、適宜改善を実施する。
	専攻医の採用と修了	採用：基幹型での面接等によって適性を判断し、採用可否かを決定する。修了：専門研修プログラム管理委員会で研修項目達成度合を検討し、総括責任者により修了判定を行う。
	研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件	日本専門医機構による専門医制度新整備指針に記載の特定の理由のために、研修が困難な場合は、申請により休止・中断を行う。特別な事情で移動が必要な場合は精神科専門医制度委員会に申し出て判断を仰ぐ。
	研修に対するサイトビジット（訪問調査）	日本専門医機構の方式に従う
専門研修指導医 最大で10名までにしてください。 主な情報として医師名、所属、 役職を記述してください。	数井裕光（精神科 教授）、高橋秀俊（児童青年期 特任教授）、藤戸良子（精神科 助教）、赤松正規（精神科 助教）、津田敦（精神科 特任助教）、掛田恭子（緩和医療科 学内講師）	
Subspecialty領域との連続性	児童青年期精神医学（寄附講座）や認知症疾患センターを有しており、将来のSubspeciality領域とも連動しやすい	